令和元年度 沖縄県振興審議会
第５回離島過疎地域部会議事要旨

令和元年 11 月 12 日（火）10：00～12：00

議題【離島過疎地域振興部会における委員意見に対する審議結果（案）等】について

〇保健医療計画では、「継続的に支援を充実強化させていく必要があります」と繰り返し述べられているが、それをいつ、どのようにするのかが明確になく、意見を出す場がない。解決策に結びつく仕組みが欲しい。

議題【離島過疎地域振興部会における調査審議結果報告書（案）】について

(1) 調査審議結果報告書（案）について

なし。

(2) 重要性を増した課題、新たに生じた課題について

〇「「新たに生じた課題」に対応する「新しい概念」が今後のまとめ作業で必要ではないか。「観光管理」や「関係人口」といった新しい概念も取り入れてもらいたい。

〇指標や目標を抜本的に見直せる機会は、総点検の時期しかないのではないか。適切な指標と目標のあり方に関わる論議は、既にこの段階から始まっている。この点を申し送りとして明確にした上で、今後の作業にもきちんと繋げていただきたい。

〇オーバーツーリズムの概念とそれに関わるデータの整理、何をもってオーバーツーリズムというのかきちんと整理しておく必要がある。特にＳＤＧｓとの関連でいうと、ＳＤＧｓは 2030 年をめどに行動計画をつくられているので､それに向かって 10 年後の姿を描いて、オーバーツーリズム問題、環境問題を視野に入れていただきたい。

〇国が海洋教育（海事教育）に力を入れてきているので、小学校、中学校等、低学年から海にかかわる教育をするためには船になじむような環境整備が必要である。現状は、航空券が全然取れないので、航空機の増便、または先島航路の旅客カーフェリーの実証実験をしていただきたい。それによって、航空券が取れないことが解決する。また、子供達が船を利用することにより船に興味を持たせ、船員の人材育成にも繋がる。船舶と航空機との併用でオーバーツーリズムの解決策にも繋がる。

〇教育や移住定住策など、単年度あるいは２～３年度で成果を出しにくい問題が多数ある。特に離島地域では、ＫＰＩの設定の仕方、単年度あるいは２～３年度では成果がどうして

も出にくい分野に関してどのように考えていくのかが課題である。

〇Ｉターンの場合は、受け入れる側にも入る側にもハードルが高い。その点を理解した上で、今後、移住政策をしていく必要がある。そのためには、関係人口に重点を置いていく必要があり、現在沖縄県が行っている「島あっちぃ」の事業は関係人口づくりによい。そのほか離島留学も支えていく必要がある。離島留学について、受け入れる側の運営サポートと広報に関しては、行政側で十分に支援できる内容だと思うので、来年度以降考えていければと思う。

〇本島に住むウチナーンチュが離島に行って交流するとか、見聞きするなど、システムを考えてほしい。まさしくこれは関係人口だと思う。

〇離島観光・交流促進事業（島あっちぃ事業）から、観光だけではなく、島の課題などに関わっていきたいという意識が生まれてくる一つのきっかけになると思う。この事業はぜひ続けていただきたい。

〇海岸漂着ごみは、市町村や県だけでは対応できない。国と連携して対応していかないと、沖縄の自然は守っていけない。

〇離島医療は、島で定住していく上で安心につながる一つのポイントである。何かあった場合に、診療所があり、そこに医師がいるという安心感は重要な点なので、ぜひ今後も議論を深めていただきたい。

〇医療職の安定的な供給には、非常に危機感がある。医師と同時に保健分野、医療分野をどうサポートするかが大きな課題になってきている。

〇島によっては、本島で仕事がないということで島に戻ってくるが、島でも仕事がないので親の年金で一緒に生活し、酒を飲んで暮らしており、アルコールが大きな問題になっているところがある。野菜をつくって交際用としてあげているという話があったが、その野菜を販売・換金できるような仕組みをつくる必要がある。

〇特に、離島過疎地域における医療提供体制は本件の特徴である医師一人体制であるがゆえの脆弱性を内在している。全国的な医師不足、働き方改革など医療界を取り巻く環境が激変する中で、一刻も早く、その脆弱性に対応できる仕組みを確立する必要がある。

〇５Ｇの特徴は「高速大容量」、「低遅延」、「多端末接続」と大きく３つある。５G が使

えれば、離島に医師がいなくても遠隔での診療が可能になるため大きく期待できる。しかし、インフラを構築するまでにかなりの期間を要し、コストもかかるため、それぞれのキャリアがやるのか共同でやるのかなどを検討している。いろいろな方式があると思うが、現在のＬＴＥでもできることで、極力皆様の意見を聞きながら、島における課題を解決していきたい。５Ｇが入れば可能になることがたくさんあると思うが、今できることを一緒にやっていきたい。

〇観光振興を図る上で更に地域が潤う仕組み、そしてその地域に稼ぐ力をつけさせるということも大事ではないか。

〇離島過疎地域においては農林水産業と観光が両立して地域を振興していくというスタンスを考えていただきたい。農業を含めた産業の振興において担い手不足はかなり深刻なので、人材をどう確保していくか。人口減少社会の中で、しっかり担い手不足の対策をしていかないと限界集落、限界離島がどんどん増えていくと思う。そこも踏まえた今後の施策に期待したい。

〇後継者問題、人材問題は集中して議論してほしい。総合部会でもいいし、もっと専門家を集めてこのテーマに絞ってやる必要がある。これは離島過疎地域振興部会だけではなくて全部会につながる。沖縄だけではなくて日本全体につながる問題である。どのような人材をどのように育成すればよいかというのは喫緊の課題である。

〇地域においてどのように人材を育成していくか、しっかりと考えることが重要である。

〇道路と同様に考えて海上交通を整備しないと、離島振興は成り立たないのではないか。次の振興計画に生かしていくためにも、総点検報告書の中にきちんと書き込むことが大事である。制度をつくったり、予算を確保したりするためには、計画にきちんと落とし込まれていることが重要である。

〇予算が厳しい、金のかかる話で国とも大きな交渉が必要であるという感覚は抜きにして、本当に必要なものを書き込む姿勢が大事だということで、港湾の「改良」ではなく「増設」とした。可能であれば再考頂きたい。

〇予算をかけてインフラを整備すればいいということではない。現在あるものをフルに活用する方法を考えていくことも重要ではないか。

〇離島航路の船舶の出入港に課題があるので、可能であれば、早急に静穏度の対策をしてい

ただきたい。

〇黒潮は、与那国島と台湾の間を通っていくため、海岸漂着ごみを全て与那国島で回収すれば、おそらく沖縄全域にはいかない。また、離島で産業廃棄物処理業者をつくる仕組みがほしいが、なかなか捗らない。離島の産業廃棄物と海岸漂着ごみを処理するために県が焼却船を計画してみてはどうか。

〇離島医療は喫緊の課題である。解決策を県も離島医療振興協議会も各離島の首長も含めて協議の場を設けて徹底的に議論していただきたい。

〇各部会を横につなげた総合的な議論は、これからなされると思う。特に離島過疎地域振興部会は全部会とつながっているため、産業振興にしても、環境問題にしても、ツーリズムにしても、そういうことではなお調整が必要かもしれない。

〇離島ごとに異なるニーズをきめ細かく把握すること、合わせて、その共通の解を検討し、対策や仕組みに反映することが必要である。それぞれの離島のニーズをしっかり把握し、きめ細かな対策を講じること。定住条件に限らず、産業振興、人材育成、すべてのジャンルに求められる、実効的な施策・事業の前提と考える。今回の総点検を機に、そのような取り組みの方向性を明確にしていただきたい。

〇第４章は、「克服すべき沖縄の固有課題」とまで言い切って、「離島の条件不利性克服と国益貢献」を特出ししているが、第３章の再掲のみというのでは寂しく、内容も不十分な気がする。３章等の内容を踏まえて、さらに深掘りした内容に充実していただきたい。今回の総点検の検討作業では仕方がないかもしれないが、次の振興計画では、第３章・その他の内容をさらに深掘りして、より充実した計画にしていただきたい。

〇生活インフラ整備については、交通コスト軽減の問題とも関連するが、ハードの問題として地元自治体の負担となる水道、発電、ごみ処理場、港湾空港などの各種インフラ整備への支援のほか、ソフト問題として各離島における固有の課題（例えば防災、医療、教育など）について、課題の掘り起こしと解決に向けた情報交換、課題共有、計画立案と実施への支援が必要である。

〇持続可能な循環型社会の構築の⑵に３Ｒの推進があるが、最近は外からごみを持ち込ませないというリフューズ(Refuse)を入れて、４Ｒと使われているようなので、御検討いただきたい。

報告事項

(1) SDGs と沖縄２１世紀ビジョン基本計画の関係

〇ＳＤＧｓの対応表で「〇」がついている箇所は、どのような理由で〇がついているか教えて。

(2) 今後のスケジュール（案）

なし。

その他

なし。

以　上